

各地域のまちづくり活動から③

あなたの『そば』で 祭りだワッショイ in 鶴形

16年11月14日、鶴形地域の住民が心を一にして、初めての住民イベントを開催しました。このイベントは、昨年、鶴形で起こったさまざまな変化が一つのうねりとなって、結実した結果でした。



ひとつひとつの取り組みが 大きなうねりに

昨年は、鶴形地域にとって、大きな変化の年でした。まず、4月に地域の特産である『そば』の生産向上のために、そば生産組合が立ち上がりました。従来から栽培してきた在来種に替え、新品種『鳥海富士一号』を導入し、

住民がひとつの目標に向かって、心一つに取 り組んだ。その結晶が『そば祭り』でした

鶴形地域まちづくり協議会

品種の統一と生産拡大への取り組みを
始めました。

さらに、7月には、鶴形地域まちづくり協議会を設立し、地域づくりの取り組みを始めました。鶴形といえば『そば』、そして近所(そば)の人たちが健康で、楽しく暮らしていける町を目指す、「あなたのそばで健康まちづくり」をスローガンに、まちづくりを始めました。

そば生産組合では、新品種を導入したときから、在来種と新品種の試食会を実施したいと考えていました。まちづくり協議会では、地域の人たちの笑顔フォトコンテストを開催するアイデアなどが出ていました。さらに、鶴形小学校では、毎年秋に児童が自分たちで育てたそばを打つ行事が行われ、同じく秋には、公民館文化祭もありま

した。

これらのアイデアや行事を一つにして、やってみたらどうだろう。そんなところから、鶴形の『そば祭り』がスタートしました。

住民の心が一つに

『そば祭り』を開催するために、そば生産組合、鶴形地域まちづくり協議会、公民館運営委員の3者で実行委員会を組織し、9月中旬から準備を始めました。開催当日までの準備期間が短く、不安もありましたが、何としても『そば祭り』を成功させたいという思いがみんなの中にはありました。

鶴形小学校には、校舎を会場として開放してもらったほか、児童によるそば打ち実演や合唱など、全面的に協力してもらいました。地域の農家が、地元の新鮮な野菜を出して、産直コーナーを設けることもできました。また、当日は寒い中、消防団の若者たちが交通誘導、駐車場整理にあたるなど、100人以上の住民がスタッフとして参加しました。

まさに、学校と地域が一体となって初めて『そば祭り』を行うことができたのです。すべてが初めてのことで、手作りのイベントだったこともあり、課題も多く残りましたが、祭り後の打ち上げでは「来年もやろう」という声もありました。こうして生まれた地域のつながりを大切に育ていくことで、また、新たなうねりが生まれてくるはずですよ。



鶴形地域まちづくり
協議会事務局長
松橋憲悦さん

それまで、まとまりがないと思っていた鶴形が、そば祭りをきっかけにみんなの意識が変わりました。そば祭りは、住民がひとつになつた瞬間であり、そして鶴形が元気になつた瞬間でした。

その後の地域活動にも積極的に参加する人たちが増え、世代を超えた交流の場が増えました。地域の人々が、ひとりでの行動より、みんなで活動する喜びを覚えたのだと思います。最近では、一人ひとりの鶴形に対する意識、愛情が変わってきたと感じています。

今後さらに、みんなの力で元気な鶴形にしていきたいです。